

2 第四回会議（昭和2年11月30日、12月3日）

44 昭和2年10月18日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛（電報）

第四回軍縮準備委員会において我が方の探る

べき方針につき請訓

パ リ 10月18日後発
本 省 10月19日前着

第一三〇号

安全保障委員会構成ノ為十一月末第四回軍縮準備委員会開催ノ筈ナル事ハ三全権発往電第二三三号（一）ノ「ロ」及ヒ第二五号（イ）ヲ以テ報告ノ通ナル処抑々今年総会カ新委員会設置ヲ決シタルハ第三回準備委員会ノ成績及ヒ三国会議ノ協定不成立ニ依リテ連盟ノ軍縮事業ニ蹉跌ヲ来セリトノ世人ノ悪印象ヲ一掃シ行詰レル準備委員会ノ事業ニ新生面ヲ開カントスルノ趣旨ニ出テタルモノト認メラレ從テ準備委員会及ヒ新委員会カ如何ナル程度迄真面目ニ且立入りテ本問題ノ研究ニ従事ス可キヤハ目下ノ処予測ヲ許サス將又新委員会ハ準備委員会ノ支持ノ下ニ行動ス可キ仕組ナルヲ以テ其

権限及ヒ研究題目亦準備委員会ノ決定ス可キ処ニシテ比点モ多分十一月委員会ニ於テ討議セラルル事ト存セラルル処右決定ニ当リテハ本件総会決議末段ノ四項目ヲ以テ其ノ指針ト為ス可キ事勿論ト察セラルルニ付テハ新委員会ノ事業ニ対シ我方ノ採ル可キ一般方針ト共ニ右四項目ニ関シ左ノ諸点御訓示ヲ仰ク

編 注 以下電文見当たらず

45 昭和2年10月20日 在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛（電報）

ソ連の軍縮準備委員会参加に関するイズヴェ スチア紙の論評について

モスクワ 10月20日前発
本 省 10月21日前着

第四九三号

十九日「イズヴェスチヤ」ハ来月寿府ニ召集ノ軍縮準備委員会ニ付連盟部内ニハ蘇連邦瑞西間ノ紛争解決シタル今日

46 昭和2年10月29日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛（電報）

軍縮準備委員会第四回会議の開催期日および 仮議題について

パ リ 10月29日後発
本 省 10月30日前着

第一四二号

往電第一三〇号ニ関シ

軍縮準備委員会議長ヨリ同委員会第四回本会議十一月三十日ヨリ寿府ニ開催ノ旨及仮議題ハ（一）総会及理事会決議ノ審議（二）委員会事業ノ現状ノ二項ナル旨通告アリタリ右招請状及関係書類郵送ス

47 昭和2年11月8日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛（電報）

米国代表の動向およびソ連参加につき心得 べき点について

パ リ 11月8日後発
本 省 11月9日前着

蘇連邦トシテ右委員会参加ニ支障無キコトナリタル旨ヲ蘇政府ニ注意スヘキニ非スヤトノ説アル趣ノ「ケルニツシユ・ツアイツング」紙寿府通信ニ言及シ軍縮会議ヲシテ実効ヲ収メシムルニハ蘇連邦ノ参加ヲ必要トストノ意見多ク一九二五年軍縮会議召集ニ決スルヤ蘇連邦ニモ招請発セラレタルカ当時蘇連邦政府ハ人類ノ負担ヲ軽減セシムル凡ユル試ミニ賛成シテ紛争国タル瑞西ニ開カルル会議ニ参加シ得サルモ其レ以外ニ開催セラルル場合参加スヘキ旨回答セリ前二回ノ準備委員会ハ瑞西トノ紛争解決セラレサリシ為メ蘇連邦ノ参加ナクシテ開催セラレタリ然ルニ今ヤ右紛争ハ解決セラレタリ而シテ連盟ハ軍縮会議ニ関スル蘇連邦ノ意向ヲ承知ノ筈ナリトテ如何ニモ連盟ヨリ招請アリテ然ルヘシト言ハン許リノ口吻ヲ洩ラシタル後尤モ帝国主義国ノ陰謀家ハ蘇連邦ノ不参加ヲ利用シテ蘇連邦ノ赤化帝国主義ヲ云々セントスルモノニシテ其ノ参加ヲ望マサルナリト論セリ

連盟郵送

第一四七号

本月末寿府ニ開催ノ軍縮準備委員会並ニ安全保障委員会ニ
関シ左記何等御参考迄電報ス

(一)米國ハ「ギブソン」ノ代リニ現瑞西公使「ウイルソン」
ヲ任命スルヤニ察セラレ最近同人トノ会谈並ニ杉村公使
カ連盟情報部長「スウィツァー」(米人)ヨリ聴取セル
所ヲ総合スルニ「ウイルソン」ハ安全委員会ニモ承諾参
加ヲ可トスルノ意見ヲ有シ且其ノ場合会議劈頭太平洋ニ
関シテハ四國条約ノ存立スルアリ三國間海軍制限ハ不幸
其目的ヲ達シ得サリシモ太平洋ノ平和ハ既ニ充分確保セ
ラルトノ趣旨ノ声明ヲ為スヘシトノ意見ヲ本國政府ヘ上
申シタルモノノ如ク日本モ右声明ニ対シ援助ヲ与ヘラル
レハ一般ニ好印象ヲ与フヘシト「ス」ヨリ杉村ニ話セル
由ナリ尚「ス」ハ両三日前寿府発華府ヘ赴キタルニ付米
國政府ノ意向次第二テハ或ハ松平大使ヘモ同様ノ申出ヲ
為スヤモ計リ難ク本件今後ノ發展予想シ難キモ不取敢電
報ス

(二)⁽²⁾露國ノ参加ニ関シ最近「チチエリン」ヨリ事務総長ニ対
シ瑞西政府ト「インシデント」モ無事解決セルニ依リ

第四回本會議ニ於テハ保障委員會構成ノ次第モアリ果シテ
一般の条約案ノ審議ニ入ルヤ否ヲ予斷シ得サルモ同条約案
第二読会開催ノ場合ニハ別電ノ趣旨ニテ処置セラレ度シ
編 注 欄外に協議済を示す陸軍省、海軍省の押印あり。

(別電)

本省 11月12日後発

第一一四号

帝國ノ地理的位置其他特殊ノ事情ヲ基礎トスル確定的数量
ノ決定ハ軍縮本會議ニ於テ十分帝國ノ態度ヲ闡明シ以テ我
方希望ノ貫徹ヲ期スルコトトシ準備委員會ニ於ケル原則的
要素ノ協定ニ方リテハ我主張ノ為協定成立ヲ困難ナラシム
ルカ如キハ可成之ヲ避ケ将来ニ不利ヲ来ササル程度ニ於テ
協調の態度ヲ採ラントス

因テ第二読会ニ於テ概ネ從來ノ訓令ニ準拠セラルルノ外懸
案諸項目ニ関シテハ左記方針ニ依リ適宜措置セラレ度

第一、陸軍

一、人員

(イ)他國ヨリ將校下士兵卒三分案ノ区分廃止提議セラル

露國モ軍縮準備委員會ニ参列シ得ルニ至レリ就テハ同委
員会開催ノ日程等通知ヲ請フ旨電報シ来レル由ナル
処露國カ同委員會及ヒ安全保障委員會(若シ之ニモ参加
ストシテ)ニ於テ如何ナル態度ニ出ツルヤハ目下ノ処予
測ヲ許ササルモ同國ノ参加ハ委員會ニ於ケル我方ノ態度
ニモ影響スル処鮮カラサルヤニ認メラルルニ付テハ此ノ
点ニ関シ当方ノ心得ヘキ点往電第一三〇号稟請ノ次第ト
共ニ併セテ御考究ノ上何分ノ儀御回訓ヲ請フ

48

昭和2年11月12日 田中外務大臣より
在バリ佐藤連盟事務局局長宛(電報)

第四回會議における一般的条約案審議に際し
ての我が方方針訓令

本省 11月12日前発

別電

昭和二年一月一二日付田中外務大臣より在
バリ佐藤連盟事務局局長宛第一一四号

右訓令

第一一三号

貴電第一四二号ニ関シ

ル場合ハ之ヲ支持シ其ノ成立ニ努メラレ度シ

(ロ)帝國トシテハ將校、下士卒ノ二分案ヲ提議ス

(ハ)大勢三分案ニ傾キ万已ムヲ得サレハ之ニ同意シ差支

ナシ

二、器材

器材ノ制限ニハ原則トシテ反対ナルモ大勢已ムヲ得サ
レハ仏國提議ノ予算ニ依ル間接的制限ニ賛成スヘク若
シ間接案成立セス直接制限案成ラントスルニ於テハ平
時用器材ノ制限ノミニ同意シ差支ナシ

第二、海軍

從來ノ方針ニ依ラレ度シ

第三、空軍

軍用民用ノ一括制限ハ會議ノ状況ニ依リテハ強テ主張セ
サルモ制限ノ為民用航空ヲ考慮スル主義ヲ以テ進ミ度キ
ニ依リ第Z D条ヲ支持セラルヘク已ムヲ得サレハ第A D
条ニ依ラレ度シ

第四、予算

從來ノ方針ニ依ラレ度ク大勢制限ニ傾クニ於テハ更メテ
請訓セラルヘシ

第五、公表

一、陸軍人員ノ制限及通報ノ為日割平均人員中ニ予後備兵ヲ含マシムルモ差支ナシ

二、空軍ノ階級的区分ニ依ル通報ニ関シテハ陸軍問題中人員ノ部ニ準ス

領土的区分ニ関シテハ陸軍ト同様朝鮮ヲ本国ト見做ス
三、已ムヲ得サレハ平時用器材ノミノ公表ニハ同意シ差支ナシ

第六、化学戦

化学戦ノ禁止ニハ同意ス又違反国ニ対スル制裁ハ主義ニ於テ同意ス

編注 欄外に協議済を示す陸軍省、海軍省の押印あり。

49 昭和2年11月19日

在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外交大臣宛(電報)

軍縮準備委員会へのリトヴィノフ派遣について

パ リ 11月19日後発
本 省 11月20日前着

第一五四号

合スルニ来ル軍縮準備委員会ニ関シ

一、独国側ハ可成速ニ第二読会ニ入ラムコトヲ主張シ同委員会議長宛右ノ趣申入タル由ニテ又軍縮問題ト安全保障トハ互ニ関連セシムルコトナク別個ノ問題トシテ取扱ヒ以テ軍縮ノ進行ヲ渋滞セシメサルヲ要スト為スモノノ如シ

二、之ニ反シ仏国側ハ常ニ両問題ヲ密接ニ関連セシメ互ニ並行シテ進マシメムトスル希望ナルモ英国側ハ独国ノ主張ヲ無下ニ拒絶シテ彼ニ反対ナル口実ヲ与フルヲ避ケムカ為先ツ安全保障委員会ヲシテ討議ヲ開始セシメ其ノ結果ヲ待タスシテ準備委員会第二読会ヲ開催スヘキモ其ノ実前者ノ討議熟シタル頃ヲ見計ヒ二月早々後者ヲ召集スルヲ可トスヘシトノ意見ニテ右英国案ニ対シテハ仏国側モ異議ナシトノコトナリ安全保障問題カ果シテ短時日間ニ纏マルヘキヤ甚タ疑問ナルモ右ノ次第二付同委員会ハ数個ノ分科会ニ分レ一月早々会合ノ運トナルヘキヤニ察セラル英国側モ二月前ニ第二読会ヲ開クコト絶対不可能ナリトノ意見ノ由

三、英仏共準備委員会及安全保障委員会ニ同一代表者ヲ出

杉村公使ヨリノ来報ニ依レハ来ル軍縮準備委員会ニハ露国側ハ「リトヴィノフ」ヲ派遣スル旨通知アリタル由ニテ之ニ専門家其ノ他十数名随行ストノコトナリ露国カ其ノ代表者ニ重キヲ置クハ十二月五日開催ノ理事会ニ出席ノ為参集スヘキ英、仏代表者ト接触ノ機ヲ得国交恢復ヲ試ミムトスルモノト觀察セラレ同公使ノ独逸国同僚モ同様ノ觀察ヲ下シ居ル趣ナルモ其ノ口吻ニ依レハ右「リトヴィノフ」ノ参列ニ関シ独露間ニ充分ノ諒解アリタルモノトハ想像シ兼ヌル由ナリ

在露大使へ転電セリ

50 昭和2年11月19日

在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外交大臣宛(電報)

第四回会議に関する仏国連盟事務局長および杉村公使からの内話について

パ リ 11月19日後発
本 省 11月20日前着

第一五五号

仏国連盟事務局長トノ会谈及杉村公使ヨリ得タル情報ヲ綜

スニ決シ英ハ「セシル」後任「マツクネール」仏ハ従前通「ポール・ボンクール」ナリト云フ

四、今回ノ準備委員会会期ハ英仏側ニテハ予定通四日間以上ニ亘ラシメサラムトシ此点「ドラモンド」モ全然同感ナリト云フ

五、仏国側ノ情報ニ依レハ今回露国ノ参加ハ「ランツアオ」「チチエリン」間ノ話合ニ依ルモノニシテ露国ハ全然独逸ト歩調ヲ一ニスヘシトノコトニテ右ハ往電第一五四号末段ト多少趣ヲ異ニスルモ当然ノ成行ト思考セラル
六、仏国連盟事務局長ハ数日前倫敦ニ至リ英国側ト種々打合セヲ了セル由ニ付本電所載英国側ノ態度ハ大体誤リナキモト察セラル

在露大使へ転電シ英、仏、独、白、伊へ暗送セリ

51 昭和2年11月20日

在ソ連邦田中大使より
田中外交大臣宛(電報)

ソ連代表団の顔触れについて

モスクワ 11月20日前発
本 省 11月21日前着

蘇連邦府軍縮會議及同準備會議委員一行左ノ通決定セル旨発表アリ

委員長 Litvinoff, M.M. (外務人民委員代理)

委員 Lunacharsky, A.V. (露西亜共和国文部人民委員)

「ウゲーレフ」(連邦職業同盟幹部員)

「プガチヨフ」(赤軍參謀次長、帝政時代ノ參謀大佐)

事務總長「シテイン」(外務人民委員部中央部長)

専門委員「ベーレンス」(海軍人民委員部代表、帝政時代ノ

海軍少將大戦中在伊大使館付武官ナリ)

尚右委員長ニハ他二三ノ候補者アリタルモ何レモ辞退シ

人選難ノ結果遂ニ右ノ如キ任命ヲ見ルニ至リタルモノノ如

シ又一行ノ顔触稍大袈裟ナルハ軍縮ナル好題目ヲ捉へ内外

ニ有利ノ結果ヲ収メントスルニアルヤ勿論ナリ

巴里連盟へ転電セリ

52 昭和2年11月22日 在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛

軍縮會議参加に関するリトヴィノフの新聞記

ルコトヲ秘シタルコトナシ

三、資本主義諸国カ世界大戦後相変ラス軍備ヲ拡張スルノ
事實ハ右「ソ」政府ノ抱ク不信ヲ裏書スルモノナリ

四、一般平和及軍備縮少ヲ主要目的ト称スル連盟カ成立後
七年ノ星霜ヲ閲セルニ不拘何等效果ノ見ルヘキモノナキ
ニアラスヤ連盟カ軍縮問題ヲ上程スルニ至リタルハ漸ク
一九二四年ニシテ然モ屢々軍縮會議ノ召集期ヲ遷延シ今
尚之ヲ確定セサル有様ナリ別ニ討議セラレタル海軍軍縮
ノ如キ未解決ノ儘ナルノミナラス連盟カ一九二〇年以来
主張セル軍事予算削減ノ如キ無期延期トナレリ目下ノ処
各国民衆ノ切望スル軍縮ナルモノナク何等ノ意義ナキ幾
多ノ宣言ト決議アルノミナリ

五、然ルニ「ソ」政府ハ成立後十年ノ間労働民衆ノ負担ト
ナル軍備ノ縮少ニ努力セリ例ヘハ一九一七年十一月八日
平和ニ関スル「デクレート」ヲ発シタルカ如キ一九二二
年「ゼノア」會議ニ於テ一般軍縮問題ヲ日程ニ上スコト
ヲ提議セルカ如キ同年「モスコ」軍縮會議ヲ召集シテ
西方隣国ニ対シ比例的軍縮案ヲ提議シタルカ如キ之カ証
左ナリ

者会見談について

公第三五三三号

(12月12日接受)

昭和二年十一月二十二日

在ソヴィエト連邦

特命全權大使 田中 都吉 (印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

軍縮會議ニ関スル「リトヴィノフ」声明ノ件

寿府軍縮會議及同準備委員會「ソ」連邦委員長ニ任命セラ

レタル「リトヴィノフ」ハ軍縮會議ニ対スル「ソ」連邦

ノ態度ニツキ内外新聞記者ニ与ヘタル「インターヴュー」

ノ形式ニテ二十二日大要左ノ如キ意見ヲ發表セリ

一、外国ニ於テハ「ソ」政府カ寿府軍縮會議ニ委員ヲ派遣

スルコトニ決定シタル事實ヲ以テ之レ宣伝ノ為ナリトカ

之レ軍縮問題及国際連盟ニ対スル「ソ」連邦ノ態度變化

セルコトヲ語ルモノナリトカ種々ノ臆測ヲ逞スルモノア

リ仍テ茲ニ「ソ」政府ノ軍縮問題ニ対スル立場ヲ明カニ

スヘシ

二、「ソ」政府ハ資本主義諸国カ民間ノ戦争ナルモノヲ廢
シ以テ軍縮ヲ實現スルノ用意ト能力アルヤヲ疑フモノナ

六、一九二五年連盟ヨリ軍縮會議参加方招請ヲ受クルヤ

「ソ」政府ハ之ニ主義上ノ同意ヲ表セリ過去三回ノ軍縮
準備委員會ハ「ソ」連邦ノ係争国タル瑞西ニ開催セラレ

タル為「ソ」政府トシテ之ニ参加スルコト能ハサリシモ
今回此ノ障害除去セラレタルヲ以テ茲ニ委員ヲ派遣スル

コトトセリ右ノ結果「ソ」連邦ノ敵ハ仮令會議カ不成功

ニ終ルトモ之ヲ以テ「ソ」政府ノ不参加ニ帰スルコト能

ハサルヘク又隣国ハ「ソ」政府ノ不参加ヲ利用シテ軍縮

ヲ拒絶スルコト能ハサルヘシ

七、「ソ」政府ハ侵略的野心ナク徹底的ニ平和政策ヲ遂行セ

ントスルモノニシテ凡ユル隣国ニ対シ不侵略条約ノ締結

ヲ提議シ又提議シツツアリ「ソ」政府ハ完全且一般の軍

縮ヲ主張ス尤モ資本主義諸国ニシテ完全ナル軍縮ヲ一度

ニ又ハ短期間ニ行フコトニ同意スルコト能ハサル場合

「ソ」政府ハ會議ノ決定スル期間ニ漸次軍縮ヲ実行スル

ニ同意スヘシ

八、「ソ」政府代表ハ独自ノ「プログラム」ヲ携ヘテ寿府會

議ニ臨ムヘシ此ノ「プログラム」ニ同意スルカ之ト同一

「ライン」ノ提議ヲナスモノハ之ヲ味方ト認ムヘシ又

「ソ」政府代表ハ委員會及會議ノ注意ヲ平和ノ為最モ有効ナル保障ヲ案出スルコトニ向クルコトヲ主要目的トシ第三流ノ問題ヲ討議シ又ハ何等ノ効果ナキ決議ヲナシ委員會及會議ヲ以テ或ル特定ノ国又ハ「グループ」ノ政策ノ為ニ利用スルコトニ反対スヘシ

本信写送付先 國際連盟事務局

53 昭和2年11月24日 在英國松井(慶四郎)大使より
田中(外務大臣宛)(電報)

ソ連の軍縮準備委員會参加に対する英國外相の観測等について

ロンドン 本 省 11月24日前着 発

第三一八号

二十三日日本使久原委員同道外相ヲ往訪シタル序ニ露国ノ寿府軍縮準備委員會参加ニ対スル観測ヲ質シタルニ外相ハ何レ露国力同委員會ニ於テ得意ノ「プロパガンダ」ヲ為ス位カ落ナルヘク彼等ヨリ多クヲ期待スル事ヲ得サルヘシト述ヘ又本使ヨリ「リトビノフ」トノ会見説伝ヘラレ居レルカ

現状)ノ討議ニ入りタルカ右ニ関連シ独国代表ハ同代表カ十一月十二日付議長ニ宛テ軍縮案約案第二読会速開ヲ要求シタリトノ新聞報道ニ対シ右ハ全然誤解ニシテ同代表ハ露国其ノ他新委員ノ参加ヲ機トシ其ノ軍縮ニ関スル意見ヲ聴クノ適當ナルヘキ事ヲ要求シタルニ過キスト釈明シ(ソビエツト)代表「リトヴィノフ」右要求ヲ支持シタル後一般討議ニ入ル劈頭「ソ」政府ノ名ニ於テ「リ」ハ世界大戰後ノ歴史ハ資本国間ノ軍備拡張ノ事実ヲ以テ満タサレ居リ連盟ノ軍縮事業ノ如キモ単ナル裝飾ニ過キスシテ実績一ツモ挙ラス之ニ反シ(ソビエツト)政府ハ機會アル毎ニ軍縮案ヲ提議シ其ノ誠実ナル努力ヲ継続シ来レリト述ヘ次ニ軍備ハ複雑ナル手續ニ依リ制限又ハ縮少スルヨリモ寧ろ陸海空軍ヲ一挙ニ全廃スル方実効ヲ挙げ易シトテ軍隊、艦艇、武器、器材、要塞、海軍基地及ヒ空軍根拠地、軍事予算、軍需品工場、陸海軍省、参謀本部軍令部、軍事教育等ノ各項目ノ全廃ヲ主張シ且一年内ニ(若シ不可能ナラハ漸次四年間ニ)之ヲ実行スヘキ事ヲ提案シタル後(右(ソビエツト)提案ヲ基礎トスル一般軍備撤廃案約案ノ研究ヲ速開シ(二)来年三月一般軍備撤廃會議ヲ開催スヘシトノ決議案ヲ提出セリ午後

如何ト尋ネタルニ先方ヨリ会見ヲ求メラルレハ強テ断ハルニ及ハスト思ヒ居レルカ夫レ以上ノ事ハ未タ考ヘ居ラスト答ヘタリ次ニ本使ハ往電第三一七号英米交渉説ニ言及シ目下英米間ニ封鎖及捕獲ノ問題ニ付話合行ハレ居レリトノ報道新聞ニ散見スル処真偽如何ト問ヒタルニ外相ハ全然サル事ナシトテ堅ク否定シタル上華盛頓條約所定ノ期限到達シ更ニ会合スル迄ハ下打合セ無シニ會議ヲ開クモ利益ナカルヘク英國トシテハ往電第三一六号ノ如ク措置ヲ採リ米國ノ出方ヲ見ルヲ可トスト考ヘ居レリト述ヘタリ

華盛頓、連盟事務局、仏、露ヘ転電セリ

54 昭和2年11月30日 在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中(外務大臣宛)(電報)

會議開催冒頭におけるソ連の軍備全廃提案について

ジュネーヴ 本 省 11月30日後着 12月1日前着

第二一〇号

第四回軍縮準備委員會三十日午前開會直ニ(委員會事業ノ

一般討論続行ノ筈
在露大使ヘ転電セリ

55 昭和2年12月1日 在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中(外務大臣宛)(電報)

ソ連の軍備全廃案審議の次回會議までの延期と安全保障委員會の構成等に関する討議について

ジュネーヴ 本 省 12月1日前着 12月1日後着

第二一一号

往電第二一〇号ニ関シ

三十日午後「ソヴィエツト」代表提案ニ関シ一般討議ヲ行ヒタル結果独逸代表ノ提議ニ基キ同案ノ審議ヲ次回委員會(軍縮案約案第二読会)ノ際迄延期スルコトニ決ス次ニ議題第一(第八回總會決議ノ審査)ニ移リ安全保障委員會ノ構成及之ニ与フヘキ訓令ノ件ヲ議シタルカ構成ニ関シテハ總會決議ニ基キ議長ヨリ非連盟国タル米、露兩國ニ於テ新委員會ニ参加ノ希望ヲ有スルヤ否ヤヲ兩國代表ニ質問セルニ対

シ米国代表ハ同国ノ欧州政治問題ニ対スル態度ハ既ニ屢々
声明セラレタル通りニシテ現ニ第三回準備委員会ノ際「ギ
ブソン」氏ヨリ監督制度ノ問題ニ関連シ同国ノ態度ヲ宣明
スル処アリタルカ他方太平洋問題ノ関スル限り華府四国条
約ノ現存スルアリ其他各国トノ間ニ多数ノ仲裁調停条約存
在セリトノ事実ヲ挙ケテ同国ノ安全保障問題ニ関スル独自
ノ立場ヲ明カニシタル上米國ハ保障委員会ニハ参加シ得サ
ルモ同委員会ノ勧告等カ準備委員会ニ提出セラレタル場合
ニハ同国ノ立場ヨリ之ヲ慎重考量スルニ吝ナラスト述ヘ
「ソヴィエト」代表ハ自己ノ主張スル軍備全廃コソ最良ノ
安全保障策ニシテ安全保障研究ノ口実ノ下ニ軍縮ヲ遲滞セ
シムルカ如キ政策ニハ絶対反対ナルヲ以テ準備委員会ニテ
同意ナレハ同国ハ新委員会ニハ単ニ「オブザーバー」ヲ出
スニ留メ度シト述ヘ其通り決定セラル尚米國代表ハ議長ヨ
リ「オブザーバー」派遣ノ希望ヲ同国政府ニ伝達アリ度旨
依頼セラレ之ヲ受諾セリ次ニ新委員会ニ対スル訓令ノ件ニ
付テハ本件ニ関スル九月總會並理事会ノ決議及報告ヲ其儘
同委員ニ伝達スル事ニ決シ同委員会ハ明一日午前直ニ第一
回会合ヲ催スコトナレリ

御査閲相成度

尚本信ハ特ニ米國經由送付スルニ付右御含ミ置テ請フ

第一、軍縮準備委員会第四回會議ノ一般狀況

今次ノ會議ハ其ノ仮議題ノ示スカ如ク第八回連盟總會ノ
決議審査換言スレハ安全保障委員会ノ新設及軍縮条約案
第二読会開期決定ト云フ單純ナル手續問題ヲ処理スルヲ
以テ任務トセルカ故ニ形式上ヨリ之ヲ見レハ極メテ平凡
ニ終ルヘカリシ性質ノモノナリシ処図ラスモ(一)從來本委
員会ノ英國代表ニシテ三国海軍軍備制限會議ノ同国全權
タリシ「セシル」卿カ先般本委員会代表ヲ辞シ軍縮問題
ニ関スル英國現政府ノ態度ヲ攻撃シ同国連盟協會ト相協
力シテ新ニ軍縮運動ヲ開始スルニ至レルコト(二)從來瑞西
國政府トノ紛争未解決ヲ理由トシテ本委員会参加ヲ拒絶
シ来レル「ソヴィエト」連邦カ今回始メテ之ニ参加スヘ
キ旨通知シ来レルコト(三)本委員会独國代表ハ本年十一月
十二日付書面ヲ以テ議長ニ対シ今次委員会ニ於テ軍縮条
約案ノ第二読会即開ヲ要求セリトノ報道多数新聞紙上ニ
現ハレタルコト(四)本委員会ハ十二月理事会ノ直前ニ開カ
レ然モ同理事会ニハ「ソヴィエト」連邦政府ノ重要視ス

在米、露大使へ転電セリ

56 昭和2年12月15日

在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛

第四回軍縮準備委員会および第一回安全保障

委員会の所感報告

機密連本公第六三一號

(昭和3年1月13日接受)

昭和二年十二月十五日

在巴里

國際連盟帝國事務局長

佐藤 尚武(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

軍縮會議準備委員会第四回會議及安全保障委員会

第一回會議ニ関スル感想其ノ他報告ノ件

客月末ヨリ本月初ニ亘リ華府ニ開催ノ軍縮會議準備委員会
第四回會議及安全保障委員会第一回會議ノ經過ニ関シテハ
本月十四日付普通連本公第六三〇號拙信ヲ以テ不取敢報告
ニ及ヒ置キタル処右會議中得タル感想及前記報告書中特ニ
記載ヲ避ケタル事項左記ノ通り何等御参考迄申進スルニ付

ル波蘭「リスミアニア」紛争問題カ議題ニ上レルコト等各
種事實ノ發生ニ依リ會議ハ意外ノ波瀾ヲ見ルヘク予想セ
ラレ議題其ノモノニハ相当セサル至大ノ興味及注意ヲ以
テ一般ニ迎ヘラルルニ至レリ果然第一回会合ノ劈頭議題
第二ニ関連シテ「ソヴィエト」代表ヨリ極メテ突飛且急
進的ナル軍備全廃案ノ提出アリ又最終日ノ会合ニ於テハ
軍縮条約案第二読会開期決定問題ニ関連シ軍縮ト安全保
障トノ相互關係ニ付テノ主義上ノ問題ノ論戰ヲ再燃セシ
ムヘキ形勢ヲ惹起スル等相当緊張セル場面ヲ示シタルモ
結局實質問題ハ一切之ヲ次回會議ニ譲リ予定通り手續問
題ノ決定ヲ以テ閉会スルコトナレリ

第二、「ソヴィエト」連邦参加ノ理由

同連邦外交人民委員「チチェリン」氏ヨリ連盟事務局長
ニ宛テタル参加通知ノ電報ニ依レハ「ヴォロウスキー」
暗殺事件ニ伴フ瑞西國政府トノ間ノ紛争解決セルコトカ
参加ノ直接ノ理由ナルモ右ハ單ナル形式的ノ理由ニシテ
實質的理由ハ之ヲ他ニ求メサルヘカラス此ノ点ニ関スル
新聞紙等一般ノ觀測モ亦多岐ニシテ(一)或ハ從來同連邦ノ
参加ナクハ真ノ軍縮ヲ断行シ難シト称シ来レル他ノ諸

國ヲシテ軍縮不遂行ノ口実ヲ失ハシムルニ在リト云ヒ(二)或ハ他ノ諸國ノ到底受諾シ得サルカ如キ急激ナル軍縮案ヲ提出シ其ノ拒否セラルルヲ見ルヤ他ノ資本國ニ於テ軍縮ヲ欲セサルカ故ニ「ソヴィエト」連邦亦巨大ナル軍備ヲ維持セサルヲ得サルナリト云フ口実ヲ作ラントスルニ在リト云ヒ(三)或ハ本委員會参加ヲ利用シテ資本國ノ帝國主義攻撃ノ宣伝ヲ為スニ在リト云ヒ(四)或ハ目下政權ヲ掌握セル「スターリン」「ルイコフ」ノ一派力反對党トノ間ノ争鬭ニ當リ自党ノ地位ヲ向上セシメ其ノ權威ヲ高メムトスルニ在リト云ヒ(五)或ハ英國トノ外交關係斷絶駐仏大使召還事件等ニ依リ西欧諸國トノ間ノ国交円満ヲ欠キ稍モスレハ孤立ノ地位ニ立タントスルノ形勢ヲ一転シ此等西欧諸國トノ間ノ接觸ヲ図リ出来得レハ理事會ノ為メ來壽スヘキ英外相トノ会見ニ依リ国交恢復ノ素地ヲ作ラムトスルニ在リト云ヒ(六)或ハ經濟上ノ窮狀ヲ脱シ殊ニ工業發展ノ為メノ借款ヲ得ル為メ各國代表トノ接觸ヲ求ムルニ在リト云ヒ(七)或ハ「ウィルナ」問題ニ関シ理事會直前ノ軍縮準備委員會ニ参加シツツ「リスアニア」ノ主張ヲ支持シ理事會ノ決定ヲ牽制セムトスルニ在リト云ヒ(八)或

加シ來レル同連邦ノ軍縮事業ニ對スル將來ノ協力ヲ失フノ虞アリ斯クテ委員會ハ頗ル迷惑ナル立場ニ置カレ三十日午後ノ會合ニ於テ右提案ニ對スル一般討議開始セラルルヤ各代表何レモ率先シテ發言ヲ求ムル者ナク暫ク沈黙ヲ続ケ傍聴席ヨリハ微ニ笑聲起ル有様ナリシヲ以テ仏國代表「ボンクール」氏已ムナク立チ極メテ簡單ニ新提案ヲ駁シ且同連邦ノ軍縮問題ニ對スル真面目ナル協力ヲ慫慂スル所アリ次テ独、「チェッコスロヴァキア」、希臘、智利ノ代表相次テ發言セルカ就中独逸代表ノ提議ニ依リ本提案ノ審議ヲ軍縮條約案第二讀會ノ際迄延期スルコトニ決シ之ニ依リテ一方本提案ヲ一先ツ葬リ去ルト共ニ他方同連邦ニ對シ引續キ本委員會参加ノ機會ヲ与ヘタルハ極メテ適當ナル措置ト認メラレ「ジューナル・ド・ジュネーヴ」ノ如キハ「独逸代表ノ成功」ナル見出ノ下ニ其ノ提議ノ機宜ヲ得タルヲ賞揚シ同代表ノ取計ヒニヨリ委員會ハ漸ク困難ナル立場ヨリ切抜ケ得タリト報道セリ

第四、國際連盟ニ對スル「ソヴィエト」連邦ノ態度

「ソヴィエト」連邦代表ノ壽府ニ於ケル態度及「リトヴィノフ」氏ト連盟事務局部長級トノ私的懇談會ニ出席セ

ハ之ニ反シ同連邦ハ内外ノ形勢上真ニ軍縮ヲ希望セルモノニシテ案外真面目ニ軍縮事業ニ参加スヘシト云フ等帰一スル所ナキ有様ナリシカ同國代表ノ行動等ヨリ察スレハ右理由ノ何レカ一又ハ二ノミヲ以テ同連邦ノ参加ヲ説明スルハ當ラサルヘク同連邦政府トシテハ此等ノ諸目的ヲ充分考慮シタル上此ノ際委員會ニ参加シ能フ限り有利ナル收穫ヲ得ムコトヲ企テタルモノト見ルヲ適當トスヘク一方諸國トノ接觸ヲ求メツツモ他方突飛ナル軍縮案ヲ提出スル等一見矛盾セルカ如キ態度ハ這般ノ消息ヲ語ルモノニ非スヤト思考セラル

第三、「ソヴィエト」連邦ノ軍備全廢案

同連邦ノ委員會参加ニ當リテハ必スヤ何等カノ形式ニ於テ新ナル軍縮案ノ提出アルヘシトハ一般ニ予測セラレタル処ナルカ第一日ノ會合ニ於テ「リトヴィノフ」氏ヨリ軍備全廢ニ関スル十四ヶ條ノ提案及軍縮本會議ヲ來年三月ニ開催スヘキ旨ノ提案アルヤ其ノ内容余リニ突飛且幼稚ナリシ為委員會一同何レモ苦笑スルノミナリシカ然リトテ之ヲ一笑ニ付シ去レハ「ソヴィエト」側ニ對シ資本國ハ軍縮ヲ欲セストノ宣伝ノ好材料ヲ与ヘ又今回折角參

ル杉村公使ノ得タル印象等ヲ綜合スルニ同代表ハ始メ國際連盟ヲ以テ英國政府ノ傀儡ニ過キスト為シ之ニ對スル強キ反感ヲ以テ來壽セルカ如キモ事務局側及委員會トノ接觸ニ依リテ得タル印象ハ案外良好ニシテ將來共ニ仕事ヲ為シ得ヘキ可能性アリトノ結論ニ達シタルカ如ク殊ニ連盟ニハ「ソヴィエト」連邦トハ全然別個ノ世界アリテ此処ニ同連邦ト諸外國トノ接觸ヲ図リ得ヘキ絶好ノ機會ヲ求メ得ヘキコトヲ發見シタルモノノ如シ現ニ右懇談會ノ席上「リトヴィノフ」氏ハ壽府ニ來リテ不愉快ナルハ新聞ノミニシテ連盟ノ事業ニ從事スル人々ハ所謂外交官ヨリ余程始末カヨシト云ヒ又或部長ノ勸告ニ依リ連盟事業ヲ一層正確ニ理解スル為メ同連邦ノ常駐委員ヲ壽府ニ置キ規則的ニ莫斯科ニ報告セシムルコトヲ篤ト考慮シ見ルヘシト云ヒタル由ナリ

「ソヴィエト」連邦ノ連盟加入ノ如キハ今直ニ所期シ得サルコト勿論ナリト雖モ同連邦カ從來ノ如キ全然沒交渉ノ態度ヲ捨テ連盟ト或種ノ關係ヲ保タントスル考ヲ抱キ始メタルコトハ明ニシテ同連邦カ將來連盟事業ニ協力スヘシトセハ其ノ第一歩ハ恐ラク智的協力又ハ交通ノ如キ

問題ヨリ始マルヘシト予測セラル

当面ノ問題タル軍縮及安全保障問題ニ関スル同国ノ態度ヲ見ルニ今次提出ノ軍縮案ハ全然「ブラフ」ト見ルヲ至当トスヘク将来之ヲ固執シテ同案否決ト共ニ直ニ委員會ヨリ脱退スルカ如キ決心ハ初メヨリナキカ如ク現ニ同代表声明中ニモ其ノ口吻ヲ発見シ得ヘシ(同声明第四項ノ如キ之ナリ)次ニ仲裁々判問題ニ付テハ同連邦ハ国内法制ノ根本的相違ヨリシテ連盟ノ勸奨スルカ如キ仲裁々判制度ニハ絶対ニ反対ナルヘキモ安全保障ニ付テハ大ニ色氣アリ蓋シ同連邦ト其ノ接壤諸国トノ間ニハ相互ニ危惧ノ念存在スルニ依リ之ヲ一掃スル為メ此等諸国トノ間ニ非侵略協定ヲ締結セムトスルノ希望頗ル顯著ナルモノアルヲ看取シ得ヘケレハナリ

第五、仲裁裁判及安全保障問題

(一)米國代表ノ声明

軍縮準備委員會ニ於テ米國代表ハ議長ヨリ安全保障委員會會參加ノ有無ヲ質問セラレタルニ対シ不参加ニ決セル理由ヲ述ヘタルカ其ノ際曩ニ同代表ノ内報ニ依リ不取敢電報ヲ以テ申進置キタル通華府四國條約ノ件ニ言

及シ太平洋ノ權利及利益ノ関スル限り同條約ハ充分有効ニ安全ヲ保障シ居レリト信スル旨及他ノ署名國モ同意見ナルヘキコトヲ信スル旨述ヘタルハ特ニ注目ニ値ス右声明ニ対シテハ英仏代表何レモ何等発言セス当方トシテモ特ニ發言スルノ時期ニ非スト認メタルニ付其ノ儘ト為シ置キタリ

(二)安全保障委員會ノ事業

本件ニ付テハ同委員會ノ劈頭希臘代表「ポリテイス」氏ヨリ大規模ノ資料蒐集ヲ求メ其ノ論旨稍モスレハ新委員會ノ事業ヲシテ學術的又ハ抽象的研究ニ終ラシメムトスルノ傾向アリシニ対シ英仏兩代表ヲ始メ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」代表等本委員會ノ事業ハ單ナル法律的概念ヲ構成シ又ハ抽象的決議ヲ為スニ在ラスシテ世界ノ安全保障ヲ増進スヘキ何等カノ實際の方策ヲ樹ツルニ在セサルヘカラサルコトヲ力説シタル結果委員會ハ右ノ趣旨ヲ以テ将来ノ事業ヲ進ムルコトニ一致セリ

(三)我方ノ意見陳述

安全保障委員會ニ於ケル一般討論中先ツ意見ヲ述ヘタ

ル議長「ベネシユ」氏及希臘代表「ポリテイス」氏ノ所説ハ何レモ過般連盟總會ノ決議ニ捕ハレ如何ニシテ将来安全保障委員會ノ事業ヲ進行セシムヘキヤノ手續問題ニノミ拘泥セルノ嫌アリシニ付我方ハ理論的立場ヨリ見テ安全保障問題ヲ如何ニ解釈スヘキヤ又将来本委員會カ其ノ事業ヲ遂行スルニ当リテハ如何ナル方針及精神ヲ以テ本問題ヲ処理スヘキヤノ点ヲ明ニスルノ要アリト認メ大要報告書所載ノ如キ趣旨ノ意見ヲ陳述シ置キタル次第ナリ

(四)「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」代表ノ演説

安全保障委員會ニ於ケル一般討論中特ニ一般ノ注意ヲ惹キタルハ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」代表「マルコヴィッチ」氏ノ演説ナリ同代表ハ最近締結セラレタル同国ト仏国トノ間ノ保障條約及伊國ト「アルバニア」トノ保障條約ヲ引用シ同國及「アルバニア」(殊ニ後者ノ独立ハ連盟ノ決議及大國ノ宣言ニ依リ特ニ保障セラレアリ)カ連盟規約ノ保障ニ満足セスシテ別ニ二國間ノ條約ニ依リ之ヲ補足セサルヲ得サル狀態ヲ例示シ安全保障委員會ハ世界ノ政治的実狀ニ徴シ何

等カノ具體的ノ形ニ於テ連盟規約ノ保障ヲ補足スヘキ方法ヲ講スルノ要アルト共ニ規約第十八條及第二十條ニ依リ如何ナル種類ノ二國條約カ規約ト抵触スルヤヲ審査セサルヘカラストテ暗ニ伊「ア」條約ノ規約違反ヲ仄カシ時節柄一般ノ注意ヲ惹ケリ尚右演説ノ後獨國代表カ規約第十八條及第二十條ノミナラス規約第十九條ノ重要ナルコトヲモ忘ルヘカラスト述ヘタルハ「ヴェルサイユ」條約改訂問題ト関連シテ或種ノ興味ヲ惹起セリ

(五)安全保障委員會報告者ノ選定

本件ニ付テハ相當ノ困難アリ第一問(甲)仲裁裁判條約問題ハ同問題ノ泰斗タル希臘代表「ポリテイス」氏ニ委セラルヘシト予期セラレタルモ同氏カ平和和議定書ノ報告者タル關係ヨリ多少英國側ノ反対ヲ顧慮シ同氏ニハ第一問(乙)安全保障問題ヲ担当セシメ又第二問規約ノ研究ニ付テハ報告者引受方我方ニ交渉アリシカ大國側ハ何レモ報告者タラサル傾向アリシニ付之ヲ斷リ結局和蘭代表ニ決シ又第一問(甲)ハ最初瑞典代表「ウンデン」氏擬セラレタルモ反対アリ遂ニ全然予想セラレサリシ

芬蘭代表ニ落着クコトナレリ
第六、軍縮條約案第二読会及第二回安全保障委員會ノ開期決定

本件ハ一見單純ナル手續問題ナルカ如キモ其ノ實ハ然ラス軍縮ハ現在ノ状態ニ於ケル安全保障ヲ基礎トシテ直ニ其ノ第一歩ヲ実行シ得ヘク安全保障問題ノ研究ニ藉口シテ軍縮本會議ノ開催ヲ遅延セシムヘカラストスル独国從來ノ主張ト之ニ反シ安全保障確保セラレスンハ軍縮事業ノ成功覚束ナシトスル仏国其ノ他ノ年来ノ主張トハ本年九月ノ連盟總會ニ於テ安全保障委員會創設ノ件ニ關連シテ相對立シタルカ如ク今次委員會ニ於テモ軍縮、安全保障兩委員會ノ次回會期決定ニ關シ之ヲ繰返スニ至リ殊ニ「ソヴィエト」連邦代表カ右主義上ノ問題ヲ包含スル決議案ヲ提出スルニ至リ問題ヲ一層紛糾セシメタリ然レトモ大勢如何トモシ難ク先ツ安全保障委員會ヲ二月二十日頃ニ開キ次テ三月十五日ヨリ軍縮條約案第二読会ヲ開クヘシトノ決定ヲ見ルニ至レルハ少クトモ外見上仏国等ノ主張ノ勝利ト見ルヲ得ヘク從テ国内政策ヲ顧慮スル独国代表ノ受諾ヲ困難トスル処ナリシナラムモ同代表ハ仏国

「ソヴィエト」連邦ノ主張ニ屈スルヲ得サリシモ唯安全保障問題ノ研究ノ為メニ軍縮事業ノ実行ヲ遅延セシムヘカラストノ一点ニ於テ兩國ノ主張ニ靈犀相通スルモノアルコトハ否定シ難ク委員會ニ於テモ此ノ範圍内ニ於テ兩國代表ハ常ニ相援助シ且相利用スルノ態度ニ出テタリ例ヘハ委員會ノ劈頭独国代表ヨリ議題第二ヲ廣ク解釈シテ軍縮問題ニ關スル一般討議ヲ行フヘキコトヲ主張シテ「ソヴィエト」代表ニ軍備全廢案提出ノ機會ヲ与ヘタルカ如キ同シク独国代表ヨリ「ソヴィエト」提案ノ審議ヲ次回委員會ニ延期スヘキコトヲ提議シツツ次回委員會ヲ来年三月理事会ノ一月前ニ開カムコトヲ主張セルカ如キ又最終

代表カ軍縮本會議ヲモ明年中ニ開クコトモ必シモ困難ナラサルヘシト云ヘルヲ幸ヒ議長ニ向ヒ準備委員會ヲ三月十五日ヨリ開催スルモ明年中ニ本會議ヲ開催スルコト技術上可能ナリヤト駄目ヲ押シ其ノ確答ヲ得テ茲ニ辛クモ讓歩ノ口実ヲ捕ヘタル次第ナリ

第七、「ソヴィエト」連邦ト独逸トノ提攜

「ソヴィエト」連邦代表一行ハ軍縮準備委員會開會ノ十數日前ヨリ莫斯科ヲ出發シ約一週間伯林ニ滞在セルヲ以テ其ノ間同代表ハ波蘭「リスニア」紛争事件ニ關シ独逸政府ノ協力ヲ求ムルト共ニ來ルヘキ軍縮準備委員會ニ於テ兩國一致ノ態度ニ出ツヘキ下準備ヲ為セリトノ觀測行ハレ同委員會ニ於テ兩國代表カ如何ナル程度迄歩調ヲ一ニスヘキヤハ頗ル興味アル問題ナリキ委員會ニ於ケル兩國代表ノ態度ヨリ察スルニ從來ノ連盟軍縮準備事業及安全保障問題ノ研究ヲ無視シテ全然新ナル出发点ヨリ軍縮事業ヲ取扱ハムトスル「ソヴィエト」連邦ノ立場ト之ヲ無視セスシテ唯連盟ノ軍縮事業ヲ一層促進セシメムトスル独国ノ立場トノ間ニハ連盟獨ト非連盟獨トノ間ノ根本的意見ノ相違アリテ此ノ点ニ關シテハ独逸代表ハ「ソ

日ノ會議ニ於テ次回委員會開期決定ニ當リ「リトヴィンフ」氏ヨリ安全保障カ軍縮ノ條件タルコトヲ全然否決スルト共ニ次回委員會開期ヲ直チニ決定スヘキ旨ノ決議案ヲ出シ且次回會合ヲ一月十日ニ開催スヘキコトヲ主張スルヤ独国代表立チテ右決議文ヲ自国從來ノ主張ニ合致スル様修正シテ之ヲ支持シタルカ如キ兩國間ノ默契ハ相當露骨ニ表面ニ現ハレタリ今後共兩國代表ノ一致的態度ニ依リ委員會ノ議事ハ相當複雑ヲ加フヘキコト予想ニ難カラス

